

県立四季の森公園 生き物ごよみ

※出現時期は四季の森公園を基準としたものです

甲虫の仲間

ナナホシテントウ(テントウムシ科)

3月～11月
体長8mm



成虫で越冬し、早春の暖かな日に目覚めて出てきます。ツヤのある橙赤色地に7つの黒丸斑、黒い頭部の目の後の白い斑が特徴的です。太陽に向かって飛んでいくように見えるので”天道”からテントウという名がついたといえます。植木や農作物を害するアブラムシが大好物で、1匹が1ヶ月で数千匹のアブラムシを食べると言われています。

アオオサムシ(オサムシ科)

4月～10月(撮影5月)
体長28mm



体は大きく光輝く緑色です。漫画家の手塚治虫さんが若い頃に好きだった昆虫です。地面を徘徊して他の小動物を餌にします。翅は退化して飛ぶことができませんが、歩く速度はかなり早いです。

アカクビナガハムシ(ハムシ科)

4月～8月
体長8mm
サルトリイバラの葉



背は鮮やかな赤色で、点刻(小さなツブ孔)は翅の前方のみに見られるのが、キイロクビナガハムシとの違いです。

アトボシハムシ(ハムシ科)

4月～6月
体長4.5～5.5mm
カラスウリ等の葉



銀色の淡黄色で上翅に普通黒い紋が2～3個あります。黄色の頭部との配色が見事です。幼虫は地中において、植物の根を食べ、成虫で越冬します。

ウズラカメムシ(カメムシ科)

4月～10月
体長8～10mm
イネ科の穂



黄褐色の地に淡黒色の縦帯があり、鳥のウズラに似ていることから名づけられました。頭部が三角形で複眼が小さいところに特徴があり、よく見ると可愛い生き物です。

オオアカマルノミハムシ(ハムシ科)

4月～8月
体長5mm



鮮やかな赤橙色の小さなハムシです。

オオヒラタシテムシ(シテムシ科)

4月～10月
体長23mm
園路上



ミミズなどの生き物の死骸を餌とするので死出虫という名が。その他に動物の糞に発生するハエのウジを餌としたり、動物の死骸から肉団子を作って地中に埋めて子どもの餌とします。捕まえると洗ってもなかなかおちない臭い液体を出します。

サビキコリ(コメツキムシ科)

4月～10月
体長16mm



比較的大きく寸胴型で、実に地味な感じがするコメツキです。

ナミテントウ(テントウムシ科)

4月～10月 集団越冬は12月～
体長8mm
越冬はトイレや四阿の天井



害虫アブラムシを餌とします。テントウムシの色と紋は変異が大きく、様々な色と紋のテントウが集まっていますが、黒色形も黄色形も同じ1つの種です。

ハナムグリ(コガネムシ科)

4月～7月
体長17mm



鮮やかな緑色の体に白色斑点があり、灰黄色の繊毛が体・脚に生えています。

ルリマルノミハムシ(ハムシ科)

4月～9月

体長4mm

サクラ・コブシ・リョウブ等の花



背面が光沢のある深い藍色(ルリ)で丸(マル)っこく小さな(ノミ)ハムシです。()を通して読むとルリマルノミハムシの名になります。昆虫の長い名前はその特徴をつなげた名前が多いからです。

アオジョウカイ(ジョウカイボン科)

5月～9月

体長18mm



ややメタリックな暗青色の翅と胸部のオレンジ色の縁取りが特徴的です。カミキリムシに似ていますが、ジョウカイボンの仲間は肉食で体は硬くありません。

イチモンジカメノコハムシ(ハムシ科)

5月

体長8mm



ヤブムラサキの葉でよく見かけます。丸く周囲が透明なのが特徴で、はじめて見る人は昆虫とは思えないでしょう。ジंगाサハムシも近い仲間です。

オオジュウニヤホシテントウ(テントウムシ科)

5月～9月

体長8mm



アブラムシ等の害虫を食べる益虫が多いテントウムシの仲間にあつて、ナス科の野菜を食べる害虫です。

オオゾウムシ(ゾウムシ科)

5月～8月

体長18mm



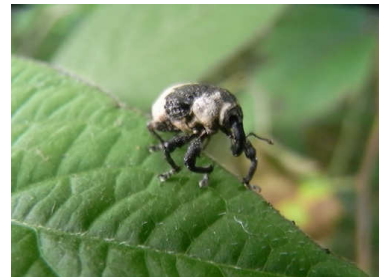
大きいものでは体長30mm近くになり、ゾウムシでは国内最大です。

オジロアシナガゾウムシ(ゾウムシ科)

5月～8月

体長6mm

クズの葉



頬と後部が白く体中央と鼻が黒いパンダ模様のゾウムシ。危険を察知すると死んだフリしますが、動かないと鳥の糞にも似ています。

キボシカミキリ(カミキリムシ科)

5月～9月
体長25mm
クワの木



黄色い斑点と体長の2倍もある長い触角が特徴の中型のカミキリです。

クロウリハムシ(ハムシ科)

5月～9月
体長7mm



農作物の害虫。幼虫はウリ科しか食べませんが、成虫は様々な植物の葉を食べます。普通に生息します。

スジアオゴミムシ(オサムシ科)

5月～10月(撮影5月)
体長23mm



比較的大きく頭と胸が緑～赤銅色に輝いています。草むらを歩き回って他の虫を食べます。お尻から臭い液体を噴射します。

ノギリカミキリ(カミキリムシ科)

5月～9月
体長35mm



全身が黒く触角がノギリのよう。首を動かしてキシギシという音を出します。

ヒメコガネ(コガネムシ科)

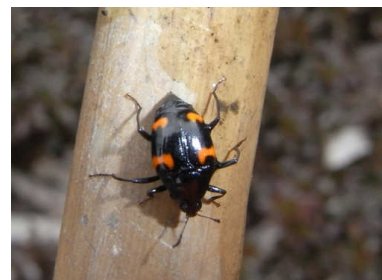
5月～8月
体長20mm
日当たりのよい葉上



野口雨情作詞による童謡「黄金虫」に、金持ちにたとえた詩があります。

ヤマトデオキノコムシ(デオキノコムシ科)

5月～10月
体長7mm



クヌギの樹液に集まるヨツボシケシキスイに似ていますがお尻がとがっていて、こちらはキノコ食です。

エゴヒゲナガゾウムシ(ヒゲナガゾウムシ科)

6月～8月
体長5mm
エゴノキ



雄はウシのような角がありウシヅラヒゲナガゾウムシとも呼ばれます。幼虫も成虫もエゴノキにつきます。

カツオゾウムシ(ゾウムシ科)

6月～8月
体長11mm



成虫になった直後は赤茶色の粉に覆われカツオブシのようですが、次第に粉が落ち褐色の地が出てきます。

カナブン(コガネムシ科)

6月～8月
体長27mm
クヌギやコナラの木



クヌギなどの樹液に集まります。硬い前翅を開かず内側に傾けてできたすき間から後翅を伸ばして飛ぶという特徴的な飛び方をします。

カブトムシ(コガネムシ科)

6月～8月
体長40mm
クヌギやコナラの木



幼虫は腐葉を食べて成長し、初夏にサナギから成虫となって地上に出できます。クヌギ等の樹液を吸います。

キイロトラカミキリ(カミキリムシ科)

6月～7月
体長17mm
枯木



公園では6月～7月に枯木からたくさん出てきてめまぐるしく動き回ります。成虫は花粉や蜜が餌です。

ゲンジボタル(ホタル科)

6月
体長13mm(オス)
あし原湿原奥・東側水路



日没後の1時間ほどが観賞におすすめの時間帯です。光りながら飛び回るのはほとんどが雄で、一回り大きい雌はあまり飛び回りません。東日本では4秒間隔で光ります。

コクワガタク(ワガタムシ科)

6月～8月
体長30mm(オス・大顎除く)
コナラ・クヌギ樹林



小型のクワガタで都市部の公園でも広く生息します。幼虫は常緑広葉樹にも穿孔して育ちます。

シロコブゾウムシ(ゾウムシ科)

6月～9月
体長16mm
クズなどのマメ化植物



ゴツゴツとした体の背尻に2つの突起があり、ゾウムシのような長い鼻でないことも特徴です。灰白色の粉が体全体について灰褐色に見えます。

スジグロボタル(ホタル科)

6月～8月
体長7mm



昼行性で光りません。幼虫は水生です。

ナガゴマフカミキリ(カミキリムシ科)

6月～8月
体長18mm
サクラ・クヌギ・ホオノキ・イチジクの樹など



樹にとまっているとよく似た保護色でなかなか見わけができません。カミキリムシはその鋭い口で幹に穿孔するため、林業・造園業者には嫌われますが、他の昆虫の繁殖に影響する鍵となる種(キーストン種)と言われます。

ニジゴミムシダマシ(ゴミムシダマシ科)

6月～10月
体長7mm
枯木やキノコの上



虹色の光沢で背に縦縞があります。キノコを食べます。

ブタクサハムシ(ハムシ科)

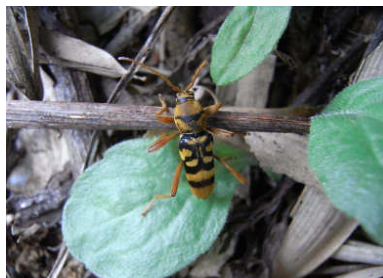
6月～9月
体長6mm
ブタクサ・オオブタクサ



北中米からの外来種で1996年ごろから日本でも見られるようになりました。オオブタクサやブタクサを食べますが、ヒマワリも食害します。サナギの時は網を張ります。

ヨツスジトラカミキリ(カミキリムシ科)

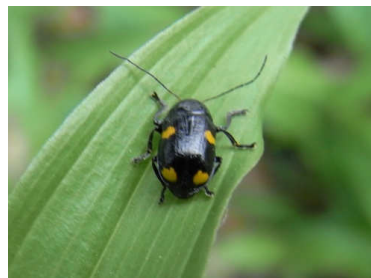
6月～9月
体長18mm



大きさと黄色地に黒褐色の縞模様で、アシナガバチと見間違えるほどです。これを擬態といい、毒針を持つハチに似せることで身を守っています。

ヨツモンクロツツハムシ(ハムシ科)

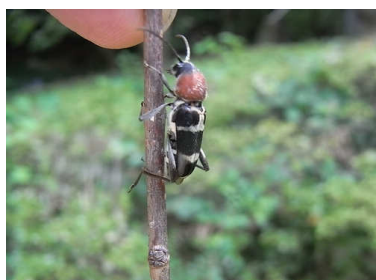
6月～8月
体長6mm



4つの黄色の紋はハート型にも見えます。

クビアカトラカミキリ(カミキリムシ科)

7月～9月
体長12mm
新しい広葉樹の枯れ木



胸部が赤く、背の紋様がランニングシャツのような美しいトラカミキリです。

センチコガネ(センチコガネ科)

7月～10月
体長17mm
動物の糞の下



センチの名の由来は動物のフンを餌とするため便所の古語であるセツチンが語源のようです。死んだフリも得意です。

タマムシ(タマムシ科)

7月～8月
体長40mm
エノキ、ケヤキ、カエデなどの高い梢・貯木場



光輝く緑色の地に金紫色の帯の美しさで古来より玉虫の厨子のように装飾に使われてきました。光の当たる角度によって色彩が変化するので玉虫色という、どのようにも受けとれるたどえに使われています。

ヘイケボタル(ホタル科)

7月
体長8mm
あし原湿原内・しょうぶ園



公園のヘイケボタルの数は少なく、ゲンジボタルの発生が終わりかける6月下旬から8月上旬まで発生しています。明滅間隔は1、2秒と早いのでゲンジボタルと区別できます。

コナラシギゾウムシ(ゾウムシ科)

8月～10月

体長8mm

コナラの樹・樹下



長い口ふんでコナラのドングリに卵を産みつけ、ドングリがついた枝ごと切り落とし、孵化した幼虫は土の中に潜って生育します。口ふんの途中からのびる触覚、大きな黒い眼そして太い脚など特徴的な甲虫です。